

～ 協同・連帯 共生・安心～

前衆議院議員

小山のぶひろ

氏に訊く

この度、民進党が「国民民主党」に名称変更することとなりました。民進党の政策・理念はほとんど変わらず、私が2017年の衆院選で訴えた主要政策や理念を今後もブレずに主張できるため、党名変更後も党に留まります。私は民進党を離党しません。この決意には、昨年の衆院選当時より、いささかの揺らぎもありません。希望の党の方々が合流することに関しては、私に對し、同党が刺客を立てた経緯もあり、正直、大変複雑な心境です。しかし、現在の政治状況は過渡的なものであり、今後、立憲民主党との連携など、リベラルから穏健な保守に至るまで幅広い野党勢力の結集に向けて微力を尽くしてまいりたいと考えており、どうかご理解いただきたいと思ひます。

多くの民進党国会議員が離党する事態となつております。浪人中の私には事実を確認できませんが、いかなる理由があつても、党運営上で起きてはならない尋常でないことが起きています。昨年の衆院選を、党籍を保持しつつ、無所属で戦いぬいた諸先輩方が離党表明をされることは大変辛く、今後とも諸先輩方のご指導を賜りたいと心より願つただけに、文字通り断腸の思ひです。

希望の党に在籍した方々が入党することについて、民進党員が政策・理念は変わつておらず、一貫している」と訴えても、世論の支持と理解は得られないものと痛感いたしております。この党に留まることは茨の道です。

しかし、それでもなお、強大な与党勢力に對抗し、緊張感のある国会を創るには、民進党（国民民主党）を支持する勢力から立憲民主党を支持する勢力、リベラルから穏健な保守」までが、政策や理念や各種選挙において、当面は、一致できる部分で協力・共闘することともに、最終的には結集することが必要と考えています。希望の党から刺客を立てられた私だからこそ、また、これまで民主党・民進党を離党せず、一度も他党の公認を得なかつた私だからこそ、党名変更後も党に留まった中で、野党間協力や再結集、市民団体との連携について果たすことができる役割があると思つています。

かつての民主党にあつて現在の野党にないものが「友愛」の精神です。民主党がまがりなりにも政権交代に至つたのは、他者との共存、価値観の違い、様々な人間関係のもつれまで、権力や利権によつてではなく、友愛の精神で乗り越えてきた、乗り越えようと試みたらだと感じています。現在、国会議員のみのらず、それぞれの党の支持者にも、それぞれの正義だけを主張する傾向もみえます。それぞれの正義はそれなりに一理あります。お互いに認めあえばよいのですが、己の正義を追求しすぎれば、対立、排除、刺客などの内ゲバになります。本当に大事な価値や共通する思いを実現し、あるいは守るためにも、内ゲバを避け、正義による対立を乗り越え、調和を図らなければならぬと思ひます。私は、民主党の原点の一つ、「友愛」の精神を受け継いでいきたいと思ひます。

浪人中の身ではありますが、捲土重来を期して地道に活動し、今後もしずしみに、立憲主義、平和安全保障法制の廃止等の見直し、農業政策等の政策や理念とともに、野党の結集・共闘を有権者の皆様に訴えてまいります。

前衆議院議員 小山 展 弘